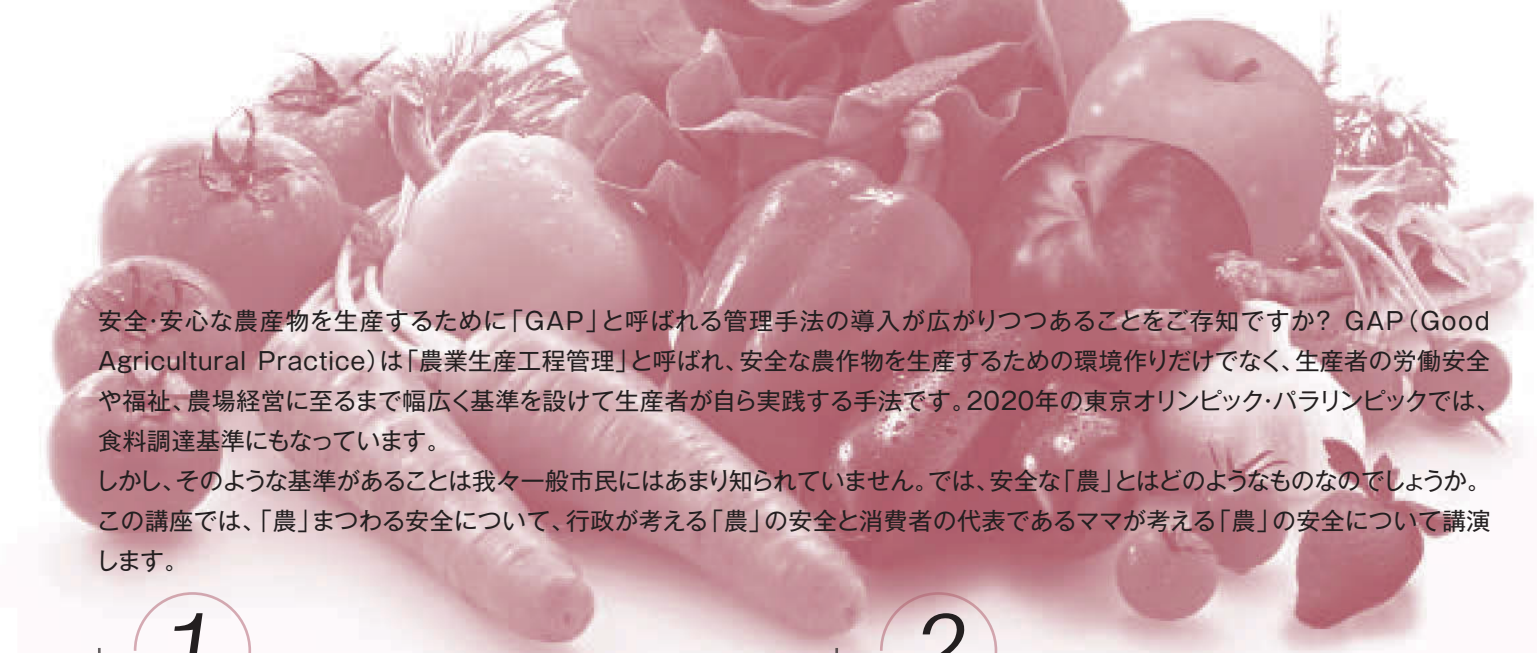
名城大学学びのコミュニティ創出事業採択課題
「GAP 教育導入による農産物生産工程におけるリスク評価のできる人材の育成」

名城大学農学部公開講座　「食と農の安全を考える」第3回

入場無料
申込不要

「農」の安全ってなに?



安全・安心な農産物を生産するために「GAP」と呼ばれる管理手法の導入が広がりつつあることをご存知ですか? GAP（Good Agricultural Practice）は「農業生産工程管理」と呼ばれ、安全な農作物を生産するための環境作りだけでなく、生産者の労働安全や福祉、農場経営に至るまで幅広く基準を設けて生産者が自ら実践する手法です。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、食料調達基準にもなっています。
しかし、そのような基準があることは我々一般市民にはあまり知られていません。では、安全な「農」とはどのようなものなのでしょうか。この講座では、「農」まつわる安全について、行政が考える「農」の安全と消費者の代表であるママが考える「農」の安全について講演します。

講演1

生産者に求める安全な「農」

田村 道宏氏
農林水産省　東海農政局　地方参事官

■ プロフィール
昭和63年京都大学農学部卒業後、農林水産省に入省し、主に農業振興、研究開発支援等に従事。国連食糧農業機関での途上国支援や、北海道開発局や沖縄総合事務局での農業振興等に関する企画調査、経済産業省での生物多様性保全に関する施策、京都大学での研究支援業務等も経験。
平成30年4月より東海農政局で農業現場への新技術の導入促進、GAP推進等を担当。

講演2

ママだから気になる安全な「農」

伊藤 理恵氏
特定非営利活動法人　マザーズライフサポーター

■ プロフィール
特定非営利活動法人マザーズライフサポーター理事長。1984年、四日市市生まれ。日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業後、グラフィックデザイナーとして広告代理店に就職。2009年長男出産を機に専業主婦に。2012年第2子妊娠中に個人事業主として「ラ・メールデザイン」を開業。翌年、特定非営利活動法人マザーズライフサポーターを設立。子連れで働ける環境の構築や子育てをシェアできる環境づくり、母としての社会的価値を見出していく事業を展開している。小3、年長、3歳児の母。

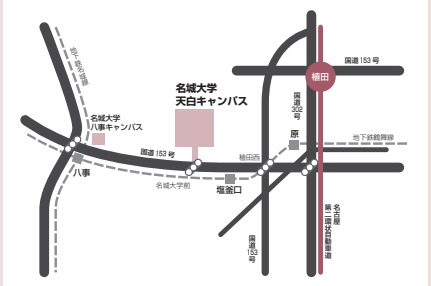
司　会　**荒川 征夫**　名城大学農学部　生物資源学科准教授

日　時　**平成30年6月9日(土) 13:00~15:00**

場　所　**名城大学 天白キャンパス 共通講義棟南 S-203教室**

定　員　**200名**

ACCESS　■ 地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口（右）徒歩約4分。



主　催　名城大学農学部　〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501　お問合せ　TEL 052-838-2054（農学部事務室）